

2022年3月7日  
九州電力株式会社

## 玄海原子力発電所3号機 第16回定期検査の状況をお知らせします

— 調査により漏えい燃料集合体を確認 —

玄海原子力発電所3号機は、通常運転中の2021年11月30日、1次冷却材中の放射性よう素濃度に若干の上昇が認められたことから、監視強化を行うこととしました。  
(2021年11月30日お知らせ済)

その後、放射性よう素濃度の監視を行いながら安全に運転を継続し、2022年1月21日から第16回定期検査を行っています。

放射性よう素濃度が上昇した要因として、原子炉の運転に伴い生成された放射性よう素が燃料集合体から漏えいした可能性が考えられることから、本定期検査において、原子炉容器から取り出した全ての燃料集合体193体（ウラン燃料173体、MOX燃料20体）の漏えいの有無を確認する調査を実施しました。

その結果、燃料集合体1体（ウラン燃料）に漏えいが認められました。

漏えいが認められた燃料集合体については、今後、詳細に調査<sup>※</sup>を実施し、その結果については、改めてお知らせします。なお、当該燃料集合体については、今後は使用しないこととしています。

定期検査の実施にあたっては、引き続き、安全確保を最優先に、検査や作業を一つひとつ丁寧に進め、今後の安全・安定運転に万全を期してまいります。

以上

- ※ 燃料集合体は、264本の燃料棒で構成されており、このうち漏えいしている燃料棒を超音波により特定する。  
特定した燃料棒について、ファイバースコープを用いて燃料棒の表面状態を観察し、異物の有無、損傷及び著しい腐食等異常の有無を確認する。